人権とコロナについて

忍野村立忍野中学校三年　　天野　紗希

人権について作文を書くことになり、まず人権とは何か調べることにしました。人権とは、人としてその社会の規範の中で自由に考え自由に行動できる権利です。もう少し簡単に言うと、ひとりの人間として命が守られ、社会のルールの中で明るく楽しい生活を送る権利です。しかし、集団生活となると、全員がそのルールを守るとは限らず、仲間はずれにされたり、いじめられたり、変なウワサを立てられたりなど人権を侵害するという問題が出てきます。

身近に起きている例として、コロナによる人権侵害があげられます。コロナが世の中で発見された時は、未知の病であり、ひどく恐ろしく怖いものだという印象でした。薬やワクチンもなく、人々に次々と感染していき、死亡する人もいました。テレビなどで元気に活躍していた芸能人がコロナに感染し死亡したニュースは、とてもショックを受けました。毎日のようにコロナ感染者数は報道されました。感染した人に対する誹謗中傷や偏見・差別は社会問題となっています。

例えば、学校などで発熱や頭痛により早退したり、長い間休んでいる人を見かけると、

「あの人コロナにかかったのかな。」

とウワサが広がります。また、スーパーや飲食店などに行き、感染者の多い地域の車のナンバーを見かけるだけで、

「コロナがはやっている場所から来て、ここにコロナ菌持ってきてないかな。」

と感じる人もいるようです。そのため、

「地元に住んでいる者です。」

と自らステッカーを付けて申告する人もいるようです。さらに、発熱や、咳をしている人を見かけると、反射的にコロナだと疑います。しかし、その症状の原因が他の病気からのものであれば、自らをぜんそくやアトピー、花粉症であることを知らせるためにキーホルダーなどをつけている人もいるようです。

先日、母からこのような話も聞きました。ある会社で、ある子がしばらく頭痛やだるさを感じ、微熱も続いたようです。周りからはコロナではないかと疑われていました。その子は検査をしたら陰性でした。しかし症状はさらに続きます。会社の人たちはその子に、原因がわからなければ病院を変えてでも再度

検査をするように言います。そして本人は会社の人から強く言われ、精神的に追いつめられてしまい、最終的には会社を辞めてしまいました。その子の実際の病気はコロナではなく、自律神経失調症だったのです。私は、この会社の人たちは言いすぎていると思いました。たとえ症状が似ているとはいえ、初めからコロナだと決めつけて追いつめてはいけないと感じます。もっと人の相談に乗ってあげれば良かったのではないでしょうか。偏見による攻撃は、とても恐ろしいものであると思い知らされた出来事でした。

差別や偏見は、様々な人に向けられています。例えば感染者本人にとどまらず、濃厚接触者にまで及びます。特に地域によっては、ウワサ話のネタとなり、すぐに情報は広まります。学校などではいじめの対象となるケースもあるようです。そして、なぜコロナになったのか原因を推測され、その人の行動すら非難されるようです。例えば、感染者の住宅の窓ガラスが割られる事もあり、余儀なく引っ越ししたという人もいるそうです。

誰もがコロナにかかるリスクはあります。ワクチンが開発されても感染者は増える一方です。そこで今私達に何が出来るのか考えてみました。まず、誹謗中傷、差別、偏見をなくすことです。自分がコロナにかかるのではないかという恐怖から、他人を疑ったり追いつめたりしてはいけません。干渉しすぎることなく、そっと見守ることが大切です。そして自らマスク・うがい・手洗い・消毒をし、相手を不安にさせない配慮も必要です。コロナは変異株も出現し、おさまる気配すらありません。私の知り合いや友達も感染しています。いつ自分がコロナになっても不思議ではありません。ひとりの人間として命が守られ、みんなが明るく楽しい生活がおくれる世の中になってほしいと私は思いました。